

# 熱海・根府川の 美術館をたずねて

熱海に春の訪れを告げる国宝『紅白梅図屏風』、  
力強く生命感溢れる澤田政廣の木彫、写真家杉本博司の世界観を表す建築群。  
今春はアートと梅花、海を臨む風景を愛でる研修となりました。



1



2



4



3



- MOA美術館
- 澤田政廣記念美術館
- 江之浦測候所

最初の訪問先MOA美術館では「リニューアル3周年記念名品展第1部」と銘打った展示会を鑑賞しました。毎年梅の開花時期に合わせて展示される国宝、尾形光琳作『紅白梅図屏風』はもちろん、いずれも国宝の京焼の大成者 野々村仁清作「色絵藤花文茶壺」や手鑑「翰墨城」をはじめとした数多くの東洋美術の名品を楽しみました。

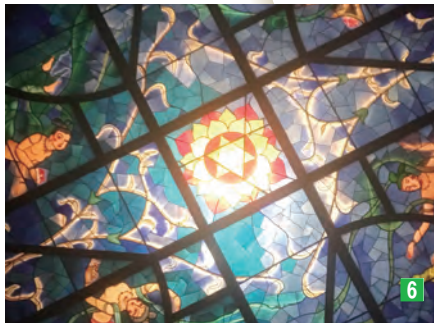
茶の庭と呼ばれるエリアは植栽の緑が大変美しく、また紅白の梅が随所に配されています。庭園を散策して、現存する図面を基に尾形光琳の屋敷を復元した「光琳屋敷」を巡り、おいしい蕎麦の昼食に舌鼓を打ちました。

続いて訪れたのは、熱海梅園。残念ながら梅の見頃は過ぎていましたが、「梅まつり」で多くの見物客で賑わう中をのんびりと散策しながら、隣接する澤田政廣記念美術館

自由が丘駅  
女神像「あおそら」



東急電鉄自由が丘駅ロータリーに立つ女神像「あおそら」は澤田政廣の作品です。戦前の昭和2年、自由が丘駅は「九品仏」という駅名でしたが、「衾駅」に改名することが内定していました。駅周辺に住んでいた文化人たちが新駅名採用に当たって熱心な要望活動を行い「自由ヶ丘」（現在は「自由が丘」）と変更されるに至りました。この運動に舞踊家の石井漠、画家の岡本太郎らとともに加わっていたのが澤田政廣でした。戦後復興に際しロータリーに外国広場のような彫像を設けようと、澤田が作品の依頼を受けました。以来、女神像はシンボルとして自由が丘の町を見守り続けています。



6



5



8



7



9

1江之浦測候所 明月院（室町時代）門前にて 2尾形光琳『紅白梅図屏風』MOA美術館所蔵 3野々村仁清『色絵藤花文茶壺』MOA美術館所蔵 4鑑賞の初めには沼辺信一講師による「見どころ」レクチャーがあり、参加者は熱心に聞き入っていました。会場はMOA美術館内スタジオ 5澤田政廣記念美術館 6天井ステンドグラス『飛天』 7・8夏至光遙拝100メートルギャラリー。海拔100m地点に100mのギャラリーが立つ。先端部分は海に向かって持ち出しとなっている。7はギャラリー側、8はその裏側 9光学ガラス舞台。檜の懸造りの上に光学ガラスが敷き詰められた舞台。冬至の朝、ガラスの小口には陽光が差し込み輝くのが見える 10海を見下ろす高台のいたるところから見える菜の花とみかんが印象的



10

を目指しました。熱海市出身で熱海市名誉市民、文化勲章受章の木彫家澤田政廣の彫刻の数々や墨彩などを鑑賞しました。エントランス天井のステンドグラス「飛天」を大切な方と手をつないで見上げると、いつまでも幸せでいられるとか……。

江之浦測候所は根府川駅近くの高台に位置しています。写真家杉本博司構想の建築群で、美術品鑑賞のためのギャラリー棟、待合棟、石舞台、茶室などから構成されています。昨年秋に散策の小道や竹林などが拡張整備されるなど、日々進化をとげています。参加者は広いエリアを思い思いに散策し、お気に入りの場所での写真撮影などを楽しみました。

「古美術を庭に並べてある昔ながらの美術館のようなところもあり、古代の遺跡のような感じもあり、冬至の日の出の方角とか古代文明のような要素もあり、江之浦測候所は類例のない面白い場所でした。MOA美術館の展示室のリニューアルも杉本が手掛けていることを考えると、同じ日の午前、午後と見られて、とても面白い組み合わせで良かったと思います。こういう場所こそバスツアーでなければなかなか来られないでしょう。もしかしたら次に来たときはカフェができてくるかもしれませんね。カフェがあるともっといいと思いませんか？」との沼辺講師のお話を車中であかっているうちに、バスは解散地の小田原駅へ到着しました。